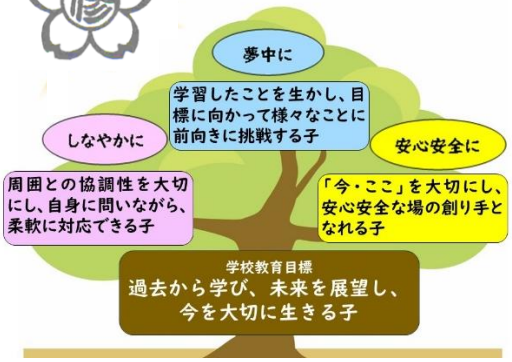
たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和8年　6月26日
京都市立修学院小学校
校長　鎌田　賢二

校長室だより「こころ」NO.48

自立した学び

～ けテぶれの「型」の先にあるもの ～

4月の説明会でいただいた、大切なご意見をご紹介します。（一旦回答を集約いたしました。ご意見ご感想ありがとうございます。）「子どもが調べ学習をしたいとき、けテぶれの型にうまく収まらなかった。すべての学びがこの型に収まるのだろうか」という、学びの本質に関する問いかけです。このような率直なお声をいただけることを、学校は宝物だと思っています。

宿題で出ている「けテぶれ」というのは、け（計画）テ（テスト）ぶ（分析）れ（練習）の頭文字をとったものです。一言で言えば、「自分の学習を自分で組み立てるための、自己認知のサイクル」です。調べ学習は、子どもの興味関心を広げる素晴らしい活動ですがともすると、「ただ写すだけ」になりがちという課題もあります。調べ学習をけテぶれの型で当てはめると事前に「自分はそのテーマについて何を知っているのか」というテストをすることになります。すると同時にまだ知らないことつまり、その日の学習の「問い」を明確にすることができます。その上でその問いについて調べていくことで自分の興味を深めることができます。もちろん、けテぶれは「型」なので、時にはくずれることもあるでしょう。また、頭の中ではすでに分かっていることを言語化することが面倒に感じる場面もあるかもしれません。さらに言えば、「け→テ→ぶ→れ」の順番通りでなく、「ぶ→れ→け→テ」のように順序がかわることもあれば、「け→テ→ぶ」だけで十分なときもあります。それでいいのです。

日本の武道や芸道に「守・破・離」という言葉があります。まず「型を知る（守）」、次に「自由度をあげてオリジナルを生み出す（破）」、そして「ふりかえりで学ぶことを呼び出す（離）」。けテぶれも、この考え方と同じです。最初は型を大切にしながら、慣れてきたら自分なりにアレンジし、最終的には「学ぶことそのものを自分のものにする」。そのためのサイクルです。私たちが目指しているのは、「型をそろえること」ではありません。子どもたち一人一人が「自分の学び方」を見つけ、「夢中」になれる学びを深めていくことです。型に縛られて、学ぶ楽しさが消えてしまっては本末転倒です。お子さんの「やりたい！」というエネルギーや好奇心を、一番に大切にしてほしいです。けテぶれは「学び方を学ぶ」ための大切な枠組みです。その中でも本校は「分析」に視点を当てています。道徳科の授業でも分析力について取り上げて授業に取り組んでいます。保護者の皆様からのご意見は、学校の取り組みをより子どもたちに寄り添ったものに育てていく大切な栄養です。引き続き、気になることや疑問に思われたことがあれば、どうぞ気軽にお声がけください。これからも「正解」をそろえることより（というのか学習の仕方に「正解」はないのかもしれませんが…）子どもたちそれぞれの「夢中」を大切にする学校でありたいと思います。学びの形は一つではありません。

けテぶれという型を通じて、子どもたち自身が「自分の学び方」を見つけていける、そんな修学院小学校でありたいと思います。説明会での主なご意見に関してまた発信させていただきます。

型はなぜ必要なのでしょうか？